

同志社大学

2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年 3月 30日提出

所属	職名	氏名
経済学部	助教	小田 勇一
研究題目	金融システムの安定化措置にかかわる理論的分析	
研究成果の概要	<p>本年度は、中央銀行の最後の貸し手機能(LLR)の動学的な分析に注目し、重複世代モデル(over rapping generation model, OGM)を用いた銀行取付けの分析や LLR に関する最新の研究動向について文献調査を行った。また、基本となるモデルの精緻化を狙いとして、博士論文の結果を発展させる研究を行った。</p> <p>博士論文の結果を発展させる研究から英語論文と日本語論文をそれぞれ 1 本執筆した。博士論文の第 2 章を発展させ、英語論文を執筆した (学術雑誌に投稿中)。また、第 3 章の結果を発展させ、</p> <p>「銀行取付け防止策の経済効果 - 預金契約の支払停止はなぜ用いられなくなったのか? -」『経済学論叢』(同志社大学) 第 63 巻 第 4 号, pp.89-117, 2012 年</p> <p>を執筆した。</p> <p>文献調査については、Qi (1994)や Fulghieri and Rovelli (1998)といった OGM を用いた銀行取付けの研究を中心に、銀行理論における貨幣のあり方や、Cash in advance(CIA)制約に関して様々な書籍や論文を調査した。</p> <p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. Fulghieri, P., and R. Rovelli (1998) "Capital Market, Financial Intermediaries, and Liquidity Supply," <i>Journal of Banking and Finance</i>, Vol.22, pp. 1157-1179.2. Qi, J (1994) "Bank Liquidity and Stability in an Overlapping Generations Model," <i>Review of Financial Studies</i>, Vol.7, pp. 389-417.	